

国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院

National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/

発行 連携医療ネット

住所 東京都新宿区戸山1-21-1

代表 TEL 03-3202-7181

FAX 03-3207-1038

地域医療連携室

直通 TEL 03-3202-8066

FAX 03-3202-1003



連携医療NEWS

Vol.32 5月号

新任あいさつ

小児科診療科長

七野 浩之



2015年4月1日付で第一小児科医長および小児科診療科長を拝命致しました七野浩之（しちの ひろゆき）です。専門分野は小児医療・小児保健で、特に小児血液疾患と小児がん（神経芽腫・白血病・再生不良性貧血など）をサブスペシャルとしております。これから誠心誠意小児医療ならびに地域連携医療協力に努力させていただきます。なにとぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

私たち国立国際医療研究センターは、小児人口2万8千人を擁する巨大都市新宿区に立地し、地域に根差したプライマリー医療の最前線として信頼して頂けるよう日夜努力を続けております。診療には10名の常勤医師と12名の若いフェローおよびレジデント医師が担当し、また近隣の小児医療を担われる医師会の先生方に平日準夜帯の救急医療のご援助を頂きまして、24時間365日皆様のご依頼にお応えできますよう務めさせていただきます。

私たちの小児病棟には27床、新生児病棟はNICU6床とGCU6床を備え、小児病棟では感染症隔離のための陰圧室や抗がん剤治療のための逆隔離用の陽圧室など特殊室をご用意させていただいております。NICUでは様々な集中治療が可能です。

内容

- ・新任あいさつ 1
- ・内分泌外来開設のご紹介 2
旬の味覚
- ・国際診療部の開設 3
連携登録医の紹介
- ・看護通信 4

私たちの小児科は様々な感染症疾患などの急性期医療を主に日ごろの診療を行っておりますが、それに加え小児がん・循環器・精神神経および未熟児新生児の4つの高度専門医療を柱に総合的な医療を心がけております。外来では血液・がん・神経・アレルギー・腎臓・発達・心理・遺伝など重要な専門外来を開設しております。専門医資格も、小児科専門医11名、血液専門医4名、周産期専門医3名、小児血液・がん暫定指導医1名、がん治療認定医・教育医1名を擁しております。

入院生活では、日ごろの生活とは全く異なる環境に置かれることになり、こどもたちは強いストレスにさらされます。私たちは可能な限りいつもの生活を保てるように、看護師による保育活動・チャイルドライフスペシャリストの生活支援・ボランティアの方々の様々な支援活動そして訪問支援学級などを取り入れ、入院中でもより質の高い生活を送れますよう支援を行っています。爽やかな森林をイメージしたプレイルームでは、毎日こどもたちの笑い声が絶えません。

重症疾患の診療では、医療スタッフは患者家族の皆様により添いながら最良の治療を実施することが大切です。しかし現状では限界があり救えないことも少なくありません。常により良い治療法の開発を志した基礎及び臨床研究を続ける努力も怠らず、常に研究の意識を持った医療を心がけ、その実践と成果発表を行いたいと思います。

安心とゆとりの気持ちを持ち、安全で質の高い医療の提供に今後とも努めさせていただきます。どうぞ私たちの小児科を宜しく申し上げます。

内分泌外来開設のご紹介

糖尿病内分泌代謝科医長

田辺 晶代



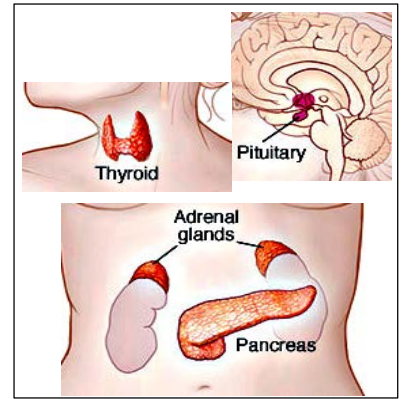
2015年1月に第二内分泌代謝科医長として赴任致しました。糖尿病内分泌代謝科の外来・病棟で主に内分泌領域の診療を担当致します。私は平成元年に東京女子医科大学を卒業し、昨年12月まで東京女子医科大学内分泌内科で内分泌疾患の診療・研究に従事して参りました。研究面では特に二次性高血圧、副腎疾患をテーマとして活動していますが、臨床面ではすべての内分泌疾患を対象に診療致します。

多くの内分泌疾患は症例頻度が低いため、疾患名は聞いたことがある、医学書で学んだ知識はある、しかし実際の臨床で遭遇することは滅多にない、と認識されることが多いかもしれません。しかし、糖尿病・高血圧・高脂血症などの生活習慣病、不整脈、骨粗鬆症、月経不順、電解質異常、Mental disorderなど一般診療で遭遇する症例の中に少ない頻度ながら一定の割合で存在します。内分泌疾患は早期発見、早期治療により原疾患とともに合併症である糖尿病や高血圧も治癒する可能性が高いことから、個々の患者さんにとって内分泌疾患のスクリーニングを受けるメリットは大きいと思われま。近年ではコントロール不良の糖尿病患者の約2%（約50例に1例）がクッシング症候群、

高血圧患者の5~10%（約10~20例に1例）が原発性アルドステロン症であると報告されています。

また近年の画像検査の普及により、脳ドックで下垂体腫瘍、頸動脈エコーで甲状腺腫瘍、胸腹部CTや腹部エコーで副腎腫瘍が偶発的に発見されることが多くなりました。これらの腫瘍は必ずしも早急に手術をする必要がない場合がありますので、まずは内分泌代謝科の外来で内分泌学的評価を行い治療方針を決定することになります。

内分泌診療の流れとしては、外来初診後、ホルモン測定に影響のない時間帯・内服薬・摂食条件で採血・採尿検査を行い、その結果から精査が必要であると判断した場合は外来での画像検査や約1週間の検査入院を行います。糖尿病内分泌代謝科では随時新患を受け付けております。若年者あるいはコントロール不良な生活習慣病、内分泌臓器の偶発腫瘍の症例を診察された際にはぜひ当院でのスクリーニング検査をお勧め下さい。



旬の味覚 鰹

鰹はサバ科の回遊魚で、年に2回旬があります。初夏に獲れる「初鰹」は、餌を求めて北上する成長中の鰹で、身が引き締まっあさりとした味わいです。成長して南下してくる「戻り鰹」は秋に旬を迎え脂がのってこってりとしています。

初鰹は高たんぱく、低エネルギーの魚で、血合いの部分には鉄分やビタミンも豊富に含まれています。鉄分は血液の中で赤血球のヘモグロビンの構成成分になり、体に酸素を運ぶ重要な働きをしています。そのため鉄分が不足すると、めまいや貧血を起こしやすくなってしまいます。鉄分は吸収率の低い栄養素ですが、ビタミンCやたんぱく質と一緒に摂ると、吸収率を上げることができます。ビタミンCの豊富なアスパラなど、旬の野菜と共に初鰹を味わってみてはいかがでしょうか。



管理栄養士 趙 蘭奈



～鰹とアスパラのトマト煮～

○材料（2人分）○

鰹(刺身用) 140g

オリーブオイル 大さじ1杯 たまねぎ 1個

アスパラガス 4本 カットトマト缶(食塩無添加) 1缶

固形コンソメ 1個 こしょう 少々 パセリ 少々

(1人当たり：エネルギー218kcal 塩分1.2g)

○作り方○

1. 鰹は2cm厚に切り、塩・こしょうで下味をつける。

2. フライパンにオリーブオイルを熱し、鰹の両面を焼いて取り出す。

3. フライパンに楕円に切った玉ねぎと4cm幅に切ったアスパラを入れ炒める。

4. 3にカットトマト缶と少量のお湯で溶かした固形コンソメを入れ煮込む。アスパラが柔らかくなってきたら2の鰹をフライパンに戻し、煮つめる。

5. こしょうをふって器に盛り、パセリを散らす。

国際診療部の開設

平成27年4月1日に国立国際医療研究センター病院に国際診療部が誕生しました。国際診療部を設置することで、患者さんや宿泊施設・地域医療機関からの電話での相談の段階で、適切な対応や受診のご案内ができるようになりました。国際診療部は同時に院内の医療者もサポートしており、通訳の手配や外国の医療機関・保険会社とのやり取りの迅速化をソーシャルワーカーや事務部門と連携して行っています。

現在は、看護師資格をもつ医療コーディネーターが3名（英語対応）配置されており、中国語・韓国語の通訳等のサポートの調整を行っています。時間外や週末については、電話通訳サービスを利用することで、患



鳥取大学から国際診療部の視察にいらしたシュミエロワ先生と記念写真

者さんとのコミュニケーションを図っています。

言葉の通じない外国でつらい症状をかかえる方の不安は想像以上に大きいものです。コミュニケーション不足は医療事故にもつながるリスクがあります。訪日外国人が増える中、この問題を解決するために国が始めたのが「医療機関における外国人患者受入れ環境整備事業」です。当院は初年度の平成26年にこの拠点病院として選ばれました。このような国や自治体等のサポートの中、2020年のオリンピック・パラリンピックを見据えてのサービス等の改善が行われると思われます。この事業は、特定の医療機関だけのためにあるのではなく、地域の医療機関と連携しながらより適切な外国人への医療の提供をめざすものです。「言葉が分からない」だけで健康が脅かされないよう、適切な医療が受けられなくならないよう、地域の皆さまとともに取り組んでいきたいと思えます。（国際診療部）



連携登録医のご紹介

進士医院

進士 雄二 先生



豊島区长崎で昭和57年から妻と二人で開業して、地

域医療で総合医・家庭医・かかりつけ医をめざしております。息子が隣街で開業（西池袋醫院）しておりますので在宅訪問診療の強化型支援で協力しております。

最寄りの駅は西武池袋線の東長崎と地下鉄大江戸線の落合南長崎駅です。

私は大学を卒業後、医療センター（当時の名称は国立東京第一病院）で臨床の研修と大学で研究も続けられた事に感謝しております。最近、小児科の松下科長の所で週1回6か月間、私達夫婦一緒に勉強させていただきました。国立国際医療研究センターに紹介した後、必ず皆が入院経過報告書を持って帰って来きます。受診して良かったと皆が言ってくれます。紹介時は出来るだけ詳細な情報を伝えるようにしております。医療センターでは土曜日等救急を引き受けて頂けるので助かっております。紹介時にかかりつけ医に退院後の受け入れのチェックも必要があると思えます。

訪問診療の際に感じることで、過去に多かった親子三代同居の家族は減少しております。家内工業の会社経営者の方で、自宅で祖母を看取り、現在は父親を孫まで参加して、家族皆で在宅介護しております。私が訪問診療の時は何時でも自動車で迎えに来てくれます。このような理想的な家族もおれば、介護放棄し、寝床にゴキブリ、蛆がわいたりしている寝たきりの高齢者もいます。画一的に、強制的に在宅を推進しても混乱を来していることも事実です。在宅支援の包括ケア制度にも限界があります。同居していなくとも、近くに連絡出来る家族が住んでいることが望まれます。

診療科	内科、皮膚科、婦人科
住所	豊島区长崎4-14-14
電話	03-3959-0525
FAX	03-3959-0672
診療時間	月～木 9:00～12:00 15:30～18:00 土 9:00～12:00
休診日	木曜日、日曜・祝日
最寄り駅	西武池袋線 東長崎駅 都営地下鉄大江戸線 落合南長崎



